

横浜市大探査会・探検部OB会 国内旅行会
 <第8回>四国3県を1泊2日で巡る旅【公式報告書】
 ~後期高齢者同士が助け合って、ちょっと若返った旅でした~

2025年
 12月24日
 発信版



■日時:2025年11月4日(火)~5日(水)

■参加者(敬称略): 大野正夫(高知県コーディネーター)

松本芳樹(徳島県&香川県コーディネーター)

松橋隆二、白井浩子、名和裕美、山本皖司、三浦茂、川尻哲夫(幹事)

■主な旅程:現地での移動手段はジャンボタクシーの貸切(運転手+8名)



(1)高知県を訪れる(11月4日9:00頃~)

- 高知空港に羽田発1便着と2便着とJR高知駅着の3通りの時間のずれがあったが、大野さんが絶妙なタイムスケジュールを組んでくれたため、一人を残して全員が桂浜の散策、龍馬像、五台山(竹林寺)を観光した。
- 龍馬像の高さは13.5mあり、龍馬の顔の表情をみることが出来ないが、春と秋は特別に展望台が設置されて、龍馬と同じ目線で太平洋を眺めることができる。運良く展望台がまだあって、我ら老人達なりの“太平洋横断の夢？”を語り合った。
- 竹林寺は、お遍路八十八ヶ所の三十一番の札所で、本堂は土佐二代目藩主の山内忠義が造営した国の重要文化財である。
参道の土塀と竹林がとてもマッチしていて、また訪れたくなる寺であった。



●日本三大“がっかり名所”的ひとつであるはりまや橋も訪れたが、やはりのその通りであった。

●最後に高知城を訪れたが、ここは絶対訪るべき価値ある名所である。

天守閣、板垣退助像、山内一豊の妻の像等、戦国～江戸～維新～明治にかけて土佐には欠かせない人物を祀るには格好の場所である。



(2)徳島県に入る (11月4日15:00頃~)

●徳島県は地図で見ると三好市(阿波池田)が西側に食い込んでいて、剣山はじめ険しい山々に覆われている。平家の落人が隠れて生き続けた伝説が残っている話は確かに頷ける。

●**かずら橋**の足場は、写真をみれば分かるように隙間が20cmもあり、幼児であれば隙間から転落する危険性がある。私たちは山本さんの介助をしながら渡り切ったが、外国人のふざけた、かつ危険な行為が最近は目立つとのこと。私達の数日前には日本人が危険警告の場所を無視して転落死する事故が発生していた。



●夕食は阿波池田の**居酒屋**で地元産の阿波尾鶏を堪能した。ホテルは松本さんが厳選した**ホテルレイブン2**に泊まり、全員から高評価を受けた。驚くほど部屋は清潔で料金は1泊朝食付で、8,800円。ここはお勧めのホテルです。



●遅れた白井さんが高知駅から阿波池田駅まで一人で鉄道の旅を楽しんで(?)このホテルにて夜遅く合流。これで8人が全員揃って、幹事も一安心！



(3)2日目は香川県へ

(11月5日8:00 出発)

●目指すは**金刀比羅宮**。

江戸時代は、お伊勢参りと金比羅参りが庶民の一生の夢であった。本宮まで785段の階段を8人が同時に昇ることは無理なので、健脚組とゆっくり組(途中までタクシー)とに分かれたが、脱落者もなく無事、参拝を済ませました。



●次は本場の**讃岐うどん店**で昼食。高松のうどん店はどこも午後2:00に店終いになって、夜は営業しないとのこと。それだけうどんが昼食に欠かせない食べモノとなっているのだろうか。



●さらに次は、**瀬戸大橋公園と同記念館**。瀬戸大橋は鉄道道路併用橋として世界最長であり、1988年に完成。宇高連絡船・紫雲丸は過去に4度の事故を起していたが、1955年の5度目では168人の死者を出して、橋の建設が急務となり、青函トンネルと並んで日本の最高の土木技術が結集して、10年の建設期間を経て完成。

●松本さんは宇高連絡船で市大と実家を行き来した思い出を語っておられた。同館では土木技術と歴史を分かり易く展示しており、展示物の豊富さと建物の壮大さに圧倒された。入場料は無料！

●さあ、いよいよ四国旅のフィナーレを飾るに相応しい**栗林公園**。ここでサプライズがあった。なぜか松本さんが香川に入ってから、或る人に電話をしきりにかけておられたが、そのお相手が栗林公園内で待っておられた。奥様ではなさそうであり、70代くらいの女性であった。まさか？と勘ぐってしまった。



●その方は松本さんの高校の同期生であった。栗林公園でボランティアガイドをされていて、とても明るい声で公園内の見所を明瞭に解説していただいた。しかも最後の反省会と精算をするに相応しい場所も特別に貸していただき、感謝感激である。

●私見でありますと、栗林公園は日本三大名園(兼六園、偕楽園、後楽園)に入っていないが、栗林公園の方が素晴らしいと感じた。調べてみると、明治初期に整備状況が悪いとの理由で漏れたとか。しかし、今は三名園とは別格で「日本最大の特別名勝」と評価されている。





【参加者8名】

(敬称略:右から)

大野正夫
白井浩子
山本皖司
川尻哲夫
三浦茂
松橋隆司
松本芳樹
名和裕美

参加者の感想文（寄稿順に、大野、山本、松本、川尻）

OB会・高齢者の四国旅行（大野正夫）

OB会の四国旅行の提案は総会で2年前にあった。9名のジャンボタクシー旅行は計画しやすい。翌年の総会で9名の旅行行程案を提案した。川尻哲夫氏は四国遍路を続けており、高知周辺を歩く時に合わせて、高知で3人により行程を検討した。竜馬像・桂浜(高知)、金毘羅宮(香川)、険しい山間で「平家の落人」が住んでいる吉野川に掛かるかづら橋(徳島)は、OB会旅行では外せないと、細かく行程を練った。

この旅には、幹事ほか、松橋隆司氏、山本皖司氏、名和裕美氏と三浦茂氏の7名が高知に、11月4日に集合した。白井浩子さんは、羽田空港で予定便に乗り遅れて最終便となり、夜10時に阿波池田のホテル着き、彼女には苦しい旅となってしまった。

まず空港より20分ほどの五台山に登り、高知中心街を遠望し、坂道を少し歩き四国遍路寺の竹林寺を訪れた。この寺の修行僧がはりまや橋で簪(かんざし)を買ったとされている。境内に建つ朱塗り五重の塔は美しかった。桂浜の「海を見下ろす竜馬像」を見て、桂浜を散策した。山本氏は左足が不自由であったが、急な階段を上り竜馬像の台座に座り満足気であった。

午後1時半に桂浜を発ち、高知城の江戸時代に建つ大手門前で記念撮影後、石畳を歩き、城を遠望して徳島の吉野川へ向かった。

午後3時過ぎにかづら橋に着いた。かつて、訪れる人も少ないところであったが、今や、観光ポイントとなっていた。ここから見る渓谷は素晴らしい。三年ごとに新らたなかづらの蔓(つる)で作りなおす橋は川面が20mほどの上に、細い板で結ばれており、慎重に、こわごわと歩いた。敵が来たら落とされる橋である。阿波池田のホテルに着き小休止。6時より鳥料理店で、二時間、和やかな会食となった。

翌朝より白井さんが加わり、金毘羅さんに着いた。御本宮まで785段の階段がある。高齢者4人は大門までタクシーで行き、大門をくぐったところにある宝物館を訪れた。白井さんは、30段ほどの階段を上り、金毘羅さんの階段を上ったと満足していた。

宝物館は格式ある石造りであり、平安時代の木造、重要文化財「十一面觀音立像」があった。帰路大門からタクシー乗り場までは細い急な坂道は、想定外の苦行であった。

讃岐うどん昼食の後、瀬戸大橋記念館を訪れた。大橋を真上にした記念館で、公園となっており、あまり知られていないところで、瀬戸大橋が良くみえる良い施設である。

3時に高松にある国の特別名勝栗林公園に入った。幹事の高校同級生であり、ボランティアで案内をしている方が、散策1時間の案内をして下さった。美しく心優し方で、名園散策を充分に満喫した。70歳以上の高齢者の旅は無事終了し、高松駅で解散した。

高齢者でも、足が不自由でも、四国旅を無事に終えることが出来た（山本院司）

11月4日から1泊2日で四国3県を巡る旅に参加してきました。「四国3県も一泊2日で周れるのか？」は私が抱いた最初の感想です。

確かに飛行機を使っての旅。これが私にとっての1番気がかりな事でした。何しろ会社生活では自分でネット予約をしたことは無く、また羽田空港国内線ロビーへも行ったこともない中、無事参加できるか不安でした。

そんな不安も高知空港でOB会の皆様の暖かい笑顔に合流したときは、まさにこれから四国の魅力（自然、風土、歴史、名所旧跡等）に触れられる旅が始まるのだ！とワクワクしてきました。

龍馬像、風光明媚な桂浜を散策しながら堪能しました。続いて、足下の隙間から谷底が見えるスリル満点のカズラ橋 渡橋体験。翌日なんと言っても金刀毘羅宮の宝物館まで辿り着き見学出来たこと、最後に回遊式大名庭園名勝栗林公園の美しい景色には息を飲むばかりでした。

今回の旅は決して自分独りで達成出来るものでなく特にカズラ橋、金刀毘羅宮はOB会の皆様の暖かい励ましと支援があったからこそ達成出来ました。皆さん、歳を感じさせない体力と好奇心と貪欲な向上心には驚くとともに励みになりました。

旅を終え、あらためて「地球の歩み方 OB会版」を読みました。

その1番に、「高齢者だからこそ、勉強と体験の旅に向けて再出発！」

～いくつになっても、知らない世界は無限にある。今からでも好奇心は蘇る～

2番目として、「相互の交流を通して、新しい刺激にどんどん触れよう」

～誰でも認知力の減退は避けられないが、交流は速度を遅らせる効果がある～

今回の旅で感じた私の感想は正にこのことを実感しました。言い得て妙です。

高知、徳島、香川の旅を終えて（松本芳樹）

今回は高知、徳島、香川を1泊2日で廻るかなりハードな旅でしたが、皆さんにご協力を頂き、無事に予定通りのコースを終えることが出来ました。

道中、かずら橋やら金比羅山の石段やら少々お疲れになったかと思います。当初は、かずら橋からホテルまでの途中に大歩危小歩危の景観を眺めていただく予定でしたが、残念ながら時間がなくてスルーしました。でも、この旅で四国の一端を楽しんでもらえたかと思っています。

香川では屋島や善通寺も考えましたが、一ヶ所は余り知られていない所と考えて、瀬戸大橋記念館を選びました。そこは好評であったようで何よりでした。

高知は東の室戸岬から西の足摺岬まで、間には仁淀川、四万十川の清流など多くの自然が残っています。四国八十八ヶ所霊場もお勧めです。いつかまた、四国に是非、お越し下さい。

栗林公園のガイド（高校の同期生）から「良い仲間に恵まれていることが直ぐに分かり、とても羨ましかった」と何度も言われました。そんなOB会の一員として、先ずは元気でいること、そして前向きな心を失わないことが何より大切。そんなことを考えながら、歩いた二日間もありました。

書を捨てよ、旅に出よう！（川尻哲夫）

OB会の旅行担当を担ってから最初にまとめた「地球の歩み方～10の狙いと方法～」の内、今回の「四国3県を1泊2日で巡る旅」は、1～5を具現化した旅であったことをあらためて実感しています。

1と2は山本院司さんが感想文で述べておられる通りです。3はケチケチプラン、4は回遊性のあるコース設定であり、ジャンボタクシーの利用で3と4が実現しました。5は地元の大野さん、松本さんがコーディネーターとなって、参加者に感動と喜びを感じてもらうように精一杯の訪問地選定をしていただきました。そこには、幹事の私では到底できない場所が織り込まれていました。

8月から開始した日帰り旅行会は既に4回、国内旅行会は1回となりましたが、来年は6～10をも具現化するように取組んでいきます。高齢者だからこそ、勉強と体験の旅に向けて再出発！